

季
報

天才アート

法人事務所

〒612-0835 京都市伏見区桃山紅雪町162番地

〒605-0811

四条・新道アトリエ

京都市東山区小松町130番地 元新道小学校内

<http://tensai-art.com>

特定非営利活動法人

しょうがいしゃげいじゅつすいしんけんきゅうきこう
障害者芸術推進研究機構

京都のアール・ブリュット

「天才アート」とは、しょうがい障害のある人の優れた感性と表現力、そこから湧き出る独創的な作品に対してネーミングしたものです。

天才アートミュージアム
The Tensai Art Museum Kyoto

- ◎ 創刊によせて／祝アトリエ開設・・・2面
- ◎ 活動紹介／アトリエ会・・・2面
- ◎ 同／展覧会&シンポジウム・・・3面
- ◎ 作品紹介ギャラリー・・・4面
- ◎ アールブリュット／先進事例・・・5面
- ◎ 同／京都市の状況・・・6面
- ◎ トピックス「内閣特命大臣賞受賞」・・・7面
- ◎ NPO法人紹介／当機構設立経緯・・・8面
- ◎ 会員・寄付の募集について・・・8面



下嶋千佳（天才アートミュージアム登録作家） 紙／水彩

創刊によせて

『天才アートミュージアム』は、昨年九月、発足二年目にして東山区大和大路四条下るの『元・新道小学校』に念願のアトリエを開設という幸運に恵まれました。これもご支援くださった方々や、地元・新道学区の皆様のご理解と京都市教育委員会の積極的な企画・推進力のおかげと感謝を申し上げるものです。

アトリエとしてしつらえられた、百四十一年の伝統ある元・新道小の教室では、すでに十九人の所属作家たちが真剣に制作にいそしみ、素晴らしい作品が生まれています。

本法人の一番の目的は、「障碍のある人々が、のびのびと芸術制作活動に臨めるようにその環境を提供する」ということにあります。世界的に広がっているこの「アール・ブリュット」生の芸術は、もちろん日本各地でも盛んになりつつあります。

「京都で、日本の天才アーティストをはぐくむ」をモットーに関係者一同、なお一層の躍進をお誓いしたいと思います。

天才アートミュージアム 理事長

松谷 昌順

祝 辞

『天才アートミュージアム』に 期待するところ

元新道校は、北隣に京都多びす神社、東側に建仁寺、西側には京都五花街のひとつ宮川町などに囲まれています。また西に道ひとつ隔てれば、日本舞踏、琴、華道など日本の伝統文化・技芸を五十年にわたり修養する東山女子学園があり、京都の風情・文化を最も醸し出す地域であります。

このような文化・文教地区に、明治二年、下京区二六番組小学校として開校され、平成二十一年には創立一四〇年を迎えました。しかし、少子化の時流には抗しがたく、平成二三年春、東山区の二中学校・五小学校とともに、東山開晴館小学校に統合されました。

地元新道学区では、数年前より学校統合後の新道校のあり方について、地元各団体の方々と侃々諤々の議論を進めてきました。平成二四年八月に京都市の幹旋もあり、地元とともに伝統と文化芸術を推進する団体として『天才アートミュージアム』を迎え入れることとなりました。

今後、元新道校に設けられたアトリエを核として、地元とともに芸術活動に邁進されることを期待しています。

新道自治連合会 会長 田中正博

活動紹介

アトリエ会

当ミュージアムでは、作家諸氏がその才能を発揮し優れた作品を生み出す制作の場として、『アトリエ会』を現在月二回、隔週の土曜または日曜日に開催しています。

所属の作家は一九名で、十二歳から二十四歳と若く伸び盛りです。描くこと・創ること・表現に迷いがありません。下描きもせず、いきなり力強い描画がされていきます。そしてその豊かな色彩感覚、造形感覚が躍如し、既に誰もが自分の表現「スタイル」を持っています。

アトリエ会は、法人設立後の一昨年十月三〇日にスタートしました。当初は定まった場所もなく、伏見区の総合庁舎の市民交流スペースなどを借りたりしましたが、その都度申込抽選にて不安定でした。しかし、元新道小学校の校舎内に常設のアトリエを持てたことで、制作に集中できる環境が整いました。

今後、ここを拠点に活動の幅を広げたいと考えています。また、同じ校舎内に「芸術系大学を卒業した若手芸術家」たちも拠点を構えますので交流が楽しみです。地元・地域の人たちとの交流やイベント企画にも期待しています。

＜京都市立元新道小学校への道順＞

京都市東山区大和大路通四条下る 4 丁目
小松町 130

■市バス (205、17系統)
河原町松原下車東へ徒歩6分
(31、46、201、203、207系統)
四条京阪前下車南へ徒歩7分

■阪急電車 河原町駅下車東南へ徒歩 10 分

■京阪電車 祇園四条駅下車南へ徒歩7分

天才アートミュージアム

<http://www.tensai-art.com>



元新道小学校の運動場より見た景色
(左奥の木造建築は宮川町歌舞練場)



大和大路から見た元新道小学校

■元新道小学校 周辺情報

元新道小学校は、祇園八坂神社から徒歩十分ほどのところにあり、東隣に名刹建仁寺、北隣は恵美須神社、西側一帯は花街の宮川町という京都らしい風情のある地域に位置します。

■ **展覧会&シンポジウム**

昨年三月十日より一七日まで東山区総合庁舎一階市民ギャラリーにて、同四月三日より一五日まで堀川御池ギャラリーにて、『天才アートミュージアム展2012』を開催しました。

堀川御池ギャラリーでは、出品作品、主催者・協賛団体等の所属作家計四四名の絵画・陶芸等、二百点余を展覧。入場者は一〇五〇名で、二八都道府県と海外にもわたっており、初開催ながら広く認知されました。



天才アートミュージアム展 2012

四条・新道アトリエ 紹介

京都で、日本の天才アーティストをはぐくむ。

四条・新道アトリエは、昭和12年建築の元新道小学校校舎の2階。創建当時のままの木の扉や窓枠、廊下、漆喰の壁、使い込まれた黒板や掲示板など、レトロな空気に満ちています。



元新道小校舎入口
(表札制作 森田正和氏)



新道アトリエのフロア
(アトリエ3室/管理室1室)



アトリエ内ギャラリー。所属作家の作品を展示しています。

当アトリエへの地図はHPをご覧ください

パネルディスカッションでは、「天才アーティストの表現に迫る」の題で障碍のある人の独特の表現力や感性、その集中力・持続力に焦点を当て、活発な議論をしました。いずれも京都市内では初の内容。刺激的であり好評でした。展覧会やシンポジウムを通じて多くの人と繋がりができ、広がりもできています。この秋には第二回展覧会の開催を計画しています。乞うご期待！



シンポジウム 基調講演の様子

また、会期中の両会場にてシンポジウムを併催しました。特に堀川御池ギャラリー会場では、基調講演に兵庫県立美術館学芸員（現 横尾忠則現代美術館学芸員）の服部正氏をお招きして「世界のアール・ブリュットの動向」と題して欧州を中心に海外の最新動向を詳しく紹介していただきました。

■ **開催 概要**

主催／特定非営利活動法人 障害者芸術推進研究機構 **共催**／京都市・京都市教育委員会 **後援**／京都市立総合支援学校校長会・京都市立総合支援学校PTA連絡協議会・京都新聞社会福祉事業団 他 **協賛**／ふしみ学園アトリエやつほう・東山青少年活動センター・洛西ふれあいの里授産園 **助成**／京都府・(財)ヤマト福祉財団

■ **シンポジウム**

◆ **基調講演**

「世界のアール・ブリュットの動向」

講師／服部 正 兵庫県立美術館学芸員（当時）

◆ **パネルディスカッション**

「天才アーティストの表現に迫る」

パネラー／服部 正・松谷昌順・重光 豊・マツダジュンイチ

〈予告〉第2回 展覧会

天才アートミュージアム展 2013
(仮称)

■ 日時／2013年11月2日（土）
～11月17日（日）

■ 会場／堀川御池ギャラリー
(京都市中京区堀川御池北東角)

第2回 展覧会の詳細につきましては、『季報 天才アート』の次号以降に順次掲載いたします。(次号 25年6月ごろ発行予定)

ギャラリー

作品作家紹介

『JR電車 006』三橋右季／画用紙、ペン、色鉛筆
三橋は電車・バスなど乗り物を好んで描き、記憶した形状や細部をアトリエや自宅で再現していきます。



『ペーパークラフト』小山裕志／紙、ハサミ
小山は下描きも無しに一枚の紙からあつという間に切り出し、折上げます。バランスよく立つ姿は今にも動き出しそうなリアルさがあります。その設計図は次々と彼の頭脳にあふれてきます。



『ゆうじゆうじ』黒川祐治／ペン、水彩、A4紙
黒川は描くときは常に歌を口ずさみながら、リズム・カルに、ひたすら自身の名前を楽譜のごとく書き連ねていきます。その上から彩色された連作の一つです。



『くらげの冒険』下嶋千佳／アニメーション（原画・部分）
下嶋は様々なクラゲを絵にします。この作品はオリジナルキャラクターのクラゲの冒険のショートストーリーの一場面です、本人がパソコンで作曲したBGMに合わせて軽快に動きまわる姿が起こエモラスです。



清水元介／色鉛筆、水彩、四つ切画用紙
清水は、テレビ番組や身の周りの出来事を好んでスケッチしています。それをもとに画面の中に全ての時間経過や、そこにある全てのものが描きこまれていきます。



三津田一輝／画用紙、クレパス
三津田特有のアレンジの加わった模写シリーズ。彼は、この他にもオリジナルのキャラクターなど変幻自在に様々なスタイルの作品も生み出しています。



『生け花』上田彩／画用紙 顔料インクペン、色鉛筆、
上田は、日々の実際の体験や暮らしの中の出来事を好んで描いています。人物や物の描き方・構図に独自のスタイルがあり、一目でこの作家の作品とわかります。



足立茉莉／画用紙 クレヨン、水彩
足立は人物と文字を好んで描き、その上から一気に着色していく表現方法で、線の文様と色彩の重なりが独特の雰囲気醸します。

アール・ブリュット、 アウトサイダーアート

アール・ブリュット (Art Brut) は、「生の芸術」という意味。

アール・ブリュットコレクションの蒐集者である画家ジャン・デュビュッフエ (仏 1901~1985) が提唱。既成の芸術との対比で「生(なま・き)」の芸術と称した。英語圏では「アウトサイダーアート」と呼ばれている。日本では「ボーダーレスアート」や「エイブルアート」を使うところもある。

■ 全国の先進事例

①『るんびにい美術館』岩手県花巻市／社会福祉法人による中規模通所施設内に設置。作業内容の一環として早くから制作活動に取り組み、グッズ販売等の他、他の利用者の作業製品も販売している。作品の常設展示・販売により啓発活動にも力を入れている。

②『マ・メゾン光星』栃木県那須郡那須町／大規模福祉施設で創作活動に力点を置き、地元ホテル・観光施設・企業等と連携して作品展覧・販売等を進めている。こうした活動を通じて地域に広く浸透。左記③とも連携している。

③『もうひとつの美術館』栃木県那須郡馬頭町／NPO法人が山間部の廃校小学校の校舎を借受けて運営。常設展示・特設展、ワークショップ開催等を行い、全国各地の作家の紹介を通じて啓発活動も進めている。(冬季は閉鎖)

④『エイブルアート・ジャパン』東京都千代田区／旧日本障害者芸術協会が母体で日本の障害者芸術の草分けでもある。二〇一〇年千代田区の中学校跡施設に開設された『アーツ千代田3331』に移転し、後掲の奈良県の『たんぽぽの家』福岡市の『工房まる』と共同運営で作品の販売・グッズ販売、デザイン利用等の著作料収入による障害者自立を目指している。各地の作家の作品収集、巡回展示などにより啓発活動にも力を入れている。

⑤『ねむの木学園』静岡県掛川市／社会福祉法人。宮城まり子氏の創設。特別支援学校・施設を運営しているほか美術館も併設し、作品のレベルは高く、原画販売・グッズ販売等を古くから行い、テレビ等で度々紹介されている。

⑥『ボーダレスアートミュージアム N OMA』滋賀県近江八幡市／県社会福祉事業団が運営。伝統的建造物群保存地区の町家を活用して各地の作家・作品を展覧・紹介し、作品の価値評価と、啓発活動に力を入れている。二〇〇六年にスイスにて日本人作品展を共催。さらに、二〇一〇年三月二四日〜同年十月二日まで、フランスのパリ市立アル・サン・ピエール美術館と共催して『ART BRUT JAPONAIS』(アール・ブリュット・ジャポネ展)を開催し、日本人の作品群は大変な評判を呼び、同美術館開館以来最大

の見学者の動員を記録した。また、全国九都府県の施設等と連携し各地域に「ボーダレスアートミュージアム」設置構想を打ち出している。

⑦『みずのき美術館』京都府亀岡市／一九五九年開設の「亀岡松花苑」を母体とし、創設者の西垣壽一氏が六〇年代以降に絵画のプログラムを取り入れて次第に発展し今日に至っている。日本でも最も古くからの取り組みであり、国内のみならず海外でも展覧会を開催したり、作品を出品したりしており、八三〜八四年にかけてNHKのドキュメンタリーでその取組が紹介され反響を読んだ。二〇一二年十月、亀岡市内に『美術館』を開設した。

⑧『アトリエ インカブ』大阪市平野区／社会福祉法人。一九九八年設立当初よりアート制作活動を作業内容として専業化し、質の高い作品群を送り出している。作品原画やグッズの販売に力点をおき、美術の専門スタッフで運営している。行政・企業など幅広い連携・支援を得て障害者の美術的才能を広く紹介しており、二〇〇八年にニューヨークで作家・作品展を開いて反響を呼んだ。二〇一一年には京都市内にもギャラリーを設置している。作家の中にはすでにプロとして、作品がギャラリー等で高値で取引されている人もある。

⑨『たんぽぽの家』奈良県奈良市／県の支援を古くから受けた社会福祉法人・財団法人による大規模複合福祉施設内で多様な活動をしている。歴史があり日本の障害者芸術活動の草分け的存在。制作・展示・グッズ販売を行うほか、イベント事業など幅広く行い啓発活動にも力を入れている。また「エイブルアート・ジャパン」の中核として東京にも展開している。

⑩『武庫川すずかけ作業所』兵庫県西宮市／社会福祉法人。中規模作業所で、アート制作を作業内容の一環として古くから取組んでおり、密度の高い作品を生んでいる。近年は大阪成蹊大芸術学部と連携している。グッズ販売、喫茶店の併設などを行い、啓発活動にも力を入れている。

⑪『鞆の津ミュージアム』広島県福山市／社会福祉法人創樹会が、日本財団の助成事業を受けて二〇一一年度設立。『崖の上のポニョ』の舞台として一躍有名になった広島県・鞆の浦の築一五〇年の蔵が美術館として整備された。創樹会は、制作活動を作業内容に取込んだ『アートセンターきらり』を比較的早い時期より設立して、障碍のある人の能力発掘に努めており、レベルの高い作品を生み出している。既にニューヨークの画廊と売買契約を結んだ作品もあるなど、世界で評価の高い作家が在籍している。

⑫『**薬工ミュージアム**』高知県高知市／NPO法人ワークスみらい。同会は障害者の就労支援を主な目的として設立。関連する様々な事業活動をしているが、障碍のある人の制作活動や作品展示にも力を入れている。薬工ミュージアムは、薬を保管する伝統的な白壁薬倉庫群を再生したもので、他にレストランや物販店、ヘアサロンなども入居し、市民交流ゾーンとなっている。県内作家を中心に作品の展示・収集・研究を進めている

⑬『**工房 まる**』福岡市南区／無認可福祉施設としてスタートし現在NPO法人。当初よりアートを作業の中核として取組み、多くの作家を育成して作品の質も高い。『たんぼの家』等と提携して『エイブルアート』の一翼を形成している。

■ 京都市の状況

『**京都市ふしみ学園**』 社会福祉法人京都市伏見区／二〇〇六年頃より、作業内容の一環として京都の芸術系大学の卒業生と連携して制作活動を始めたところであるが、既にアール・ブリュット・ジャポネ展の出品作に選ばれるほどの作品を生み出しており、作品を活用したグッズ販売等にも取り組んでいる。



■ 京都市の現状は、他道府県・政令市に比べて、活動拠点形成・取組の年数・内容や市民の認知、自治体・企業の支援の広がりなど、全般に遅れている。したがって才能ある人材が、多く埋もれた状況にある。



トピックス

当ミュージアムの作家で京都市立東総合支援学校中部二年生の**高田美貴**さんが、内閣府主催の『平成二四年度障害者週間ポスター原画コンクール』で、『**内閣府特命大臣賞**』を受賞しました。

今回の受賞作品は、障害者ポスター画コンクールの小中学生部門に応募するため、学校の夏休みの課題として描き上げられた作品です。お母さんの話によれば三日（一〜三時間／日）で、一気に仕上げたそうです。

京都市における入賞者表彰式の様子

門川大作京都市長より賞状を受ける高田美貴さん



本作品は、まず京都市におけるコンクールで『最優秀賞』に選ばれました。その後、内閣府主催の『平成二四年度全国障害者週間ポスター原画コンクール』の京都市代表作品として推薦され、全国の多数の作品（一、五二四点）の中から、優秀賞として『内閣府特命担当大臣賞』に選定されました。ちなみに、今回は小中学生部門・中学生部門で、それぞれ最優秀賞総理大臣賞とこの優秀賞の各一点ずつ計四点が選定されています。

審査委員会委員でグラフィックデザイナーの杉田豊氏の講評を引用します。「優秀賞の高田美貴さんの絵は、いつもで見ても飽きない楽しい作品である。独特な構図で密度を上げ、白地に人々の嬉しい表情で清々しいコミュニケーションの世界を描く。〈中略〉今回は総体的に高質な作品に出会えたのは嬉しいことであつた。」（内閣府ホームページより）

高田美貴 内閣府特命大臣賞 受賞作品



■ 役員

理事長 松谷昌順

(京都精華大学名誉教授 元デザイン学部長)

副理事長 重光 豊

(元京都市立呉竹養護学校・総合支援学校校長)

副理事長 濱田健二

(元京都精華大学 社会連携担当職員・東山区内自治連会長)

理事 マツダ ジュンイチ

(画家・京都嵯峨芸術大学講師・ジャルダン美術研究所講師)

理事 下嶋 篤

(同志社大学文化情報学部教授・スタンフォード大学客員研究員)

理事 伊藤 遊

(京都精華大学国際マンガ研究センター研究員)

理事 富田千果子

(書家・京都市立西総合支援学校運営協議会委員)

理事 黒川愛子

(障害福祉施設職員・元京都市立総合支援学校PTA会長)

当機構設立の経緯

一九七八年、京都市立養護学校小・中学校特殊学級の児童生徒の合同作品展『小さな巨匠展』が開催されました。一九九五年には、京都の障害者施設の利用者、障害のある市民等の作品の展覧会として『京都とつておきの芸術祭』が開催されました。いずれも京都市立美術館などを会場として今日まで継続しています。

京都市内においては、これらを嚆矢として障害のある児童生徒・市民の美術活動の作品を一同に展覧する場が早くから設けられていましたが、それぞれ年一回の開催であり、相互のつながりや連携も少なく、興味関心や才能のある人を組織的に養成したり、活動の場の保障をしたりする仕組みもなかったといえます。しかし、近年市内の障害者福祉施設においてメイン活動の一環として、美術「制作活動」に注力するところも少しずつ増えています。

また、京都市立の総合支援学校においては、『コミュニケーションスクール』の事業の中で、二〇〇六年より学校運営委員やPTAが主体となつて、障害のある児童の放課後活動として「制作活動」を地域の小学校などで開始しました。さらに同一〇年には文部科学省の研究委託を受けて、教育課程に「美術系大学等の外部の専門家を活用した制

作活動」の時間が設けられました。その結果、わずか数年にして質の高い作品が生み出されるようになり、児童生徒の隠されていた能力がどんどん開花していく状況が生まれました。

そして、この取組は、保護者、教員が障害のある児童生徒の美術表現能力を見直すきっかけとなりました。さらに、美術の専門家も障害のある人の表現能力や作品の価値に気づくきっかけとなり、その知られざる能力に瞠目するようになりました。また、二〇〇九年三月と五月と二〇一一年二月と三月に京都国際マンガミュージアムにおいて、これらの作品展を開催し、大きな反響を呼びました。

こうした取組みをふまえ、本人の興味関心や才能に応じて多様な美術表現に取組み、かつ学齢期から成人後も持続的に活動できるような場を確保する必要があるとの声が、関係者から上つてきました。そして、二〇一〇年一月にそうした関係者が集まり、障害のある人の芸術活動を支援し、そのために必要な様々な事業や取組を推進研究することを目的として、当機構を結成いたしました。

特定非営利活動法人

障害者芸術推進研究機構

天オアートミュージアム

京都市伏見区桃山紅雪町一六二一

会員と寄付を募集しています

■ 画材提供やボランティアも随時募集しています。

■ 正会員

当機構の運営の中核となります。当機構の目的・趣旨に賛同していただける方々との連携と協働による運営を目指しています。 入会金：1口3千円、年会費1口2千円

■ 賛助会員

当機構の趣旨に賛同される個人、企業、法人、団体様。
年会費 個人：1口千円 団体・企業様等：1口千円（できれば10口以上お願いいたします）

■ 名誉会員

当機構の趣旨に賛同され、基金・寄付金・助成金等として10万円以上、又は同等額の物品の寄付をいただいた企業、法人、団体、篤志家様

■ 振込口座

(1) ゆうちょ銀行 記号番号00970-9-195173 特定非営利活動法人 障害者芸術推進研究機構
(2) 京都銀行 伏見支店 普通 3830189 特定非営利活動法人 障害者芸術推進研究機構 理事長 松谷昌順

詳しくは天オアートミュージアムホームページをご覧ください。 <http://tensai-art.com> e-mail ; info@tensai-art.com

編集後記／アトリエ会での作家の皆さんの集中や没頭に胸打たれ、次々に描かれ生み出されゆく独特な作品に目を瞠り、日々興味を深めつつ『季報 天オアート』の記念すべき創刊号に関わらせていただくことができたことを心から嬉しく思います。様々な形で天オアートミュージアムの活動に関わっていくボランティアの仲間が増えていくことを願いながら、また次号の編集を楽しみに……。画像処理 高橋ちさと（ウェブデザイナー・ボランティア） 編集・構成 植村美樹（ボランティア）